

オフィスビル・アーカイブ

大阪ガスビルディング(大阪市中央区)

本誌では、全国で話題となっている新築ビルを取り上げる一方で、『オフィスビル・アーカイブ』というコーナーにおいて、長年にわたり地域のランドマークとして活躍している既存ビルにスポットを当て、全国の会員に紹介しています。

本号では、大阪ビルディング協会・京都ビルディング協会の会員である大阪ガス都市開発株の「大阪ガスビルディング」を取り上げます。大阪市内を南北に貫くメインストリートの御堂筋に面した白亜のビルとして、多くの大阪市民や著名人から愛されてきた建物の歴史を紹介します。



—「ガスビル」、御堂筋とともに歩んだ歴史—

「大阪ガスビルディング」(以下「ガスビル」)は、大阪市の北の玄関口である梅田と南の玄関口の難波を結ぶ全長約4km、幅員約44mの全6車線におよぶ大阪のメインストリート“御堂筋”に面して立地する。

大阪ガス(株)が本社を置き、現在南館と北館で構成されているが、南館が竣工したのは昭和8年(1933年)3月17日で、築84年余を数える。当時は大正から昭和へと年号が変わり、モダニズムの文化が開花した時期でもある。また、北館はガスの普及とともに会社組織が拡大し、社員数の増加に伴って増築されたもので、昭和41年(1966年)8月に竣工している。南館、北館ともに施工は(株)大林組が担当した。

もともと大阪ガス(株)の本社社屋は、今春大きな話題を集めて竣工した「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」の敷地の一角にあった。創業から8年

が経過した明治38年(1905年)に本社社屋を構え、ガス事業を展開していた。

中之島から現在の地に本社を移転したのは、当時会長の片岡直方氏が欧米ガス事情視察で米国を訪れた際、公共事業を担う会社がメインストリートに面した街区に大きなオフィスビルを構



クレーンを使った工事の様子

えていることを目の当たりにし、「ワンプロック・ワンビルディング」という理想を掲げたことが背景にあるという。

ちょうど、大阪では第7代大阪市長であった閔一氏が梅田と難波を結ぶ御堂筋線の街路計画に大正15年(1926年)から着手しており、従前5.45mの道路幅を8倍の約44mまで拡幅する大プロジェクトが進んでいた。

大阪ガス(株)の願望と周囲の環境がマッチし、同社では御堂筋線に面した現在の土地を手当てし、昭和5年(1930年)4月に地鎮祭を行い、約3年をかけて南館を建設するに至った。

南館の竣工から2か月後の昭和8年(1933年)5月に、梅田と心斎橋を結ぶ大阪初となる地下鉄が開通。それから4年後の昭和12年(1937年)5月に御堂筋線が全線開通した。

「ガスビル」は、まさに大阪の大動脈である御堂筋線とともに時を重ねてきたのである。

—モダンな都市生活を演出した「ガスビル」—

「ガスビル」南館の設計を担当したのは、大阪倶楽部(大正14年竣工)や高麗橋野村ビル(昭和2年竣工)等を手掛け、戦前の建築界を牽引した建築家の安井武雄氏である。竣工当時作成されたパンフレットの「大阪瓦斯ビルデ



南館竣工の外観写真



鉄骨建方の写真

ング新築工事概要」の中で、建物様式について『使用目的及び構造に自由様式』と記載されている。

南館は、地下2階地上8階建て塔屋付き、建築面積2,064.903m²、延床面積18,422.908m²の規模。エレベーター5基(うち、1基は荷物用)、エスカレーター、災害非常時用の電動シャッターのほか、当時としては最新の設備機器が採用されていた。



当時のフロア案内

竣工当時のフロア別案内をみると、大阪ガス(株)が本社機能として使用していたのは3階と4階で、テナント向けフロアは5階と6階に配していた。当時、テナントとして入居していたのは19社だったという。このほかのフロアは、1階がガス器具陳列場やガス器具の実演場といったショールーム的な仕様となっていたほか、2階には講演場や喫茶店、美容室が入居。7階はガス器具を使った料理講習室、8階には現在でも人気の高いガスビル食堂が営業している。

「ガスビル」に一步踏み入れると、美容室、喫茶店、レストラン、そして普及し始めたガスを使用したモダンな都市生活が体験できるなど、まさに現代の複合商業施設のような位置づけのビルであった。

—コンサートや映画鑑賞など各種イベント開催—

「ガスビル」にまつわるエピソードを

紹介すると、約600名収容できる広さがあった2階の講演場(内部は2階・3階・4階吹き抜け)では、閉鎖される昭和40年(1965年)まで各種イベントが開催された。日本の伝統芸能である能や人形浄瑠璃、クラシックコンサートのほか、漫才ブームを起こしたエンタツ・アチャコが出演した寄席も開かれた。

また、昭和11年(1936年)には本格的35ミリ映写機を米国から輸入し、映画の上演も催されるようになった。映画評論家の淀川長治氏企画による名画鑑賞会をはじめ、戦前のヨーロッパ映画や1950年代のハリウッド映画が上映され、海外の映画俳優がガスビルを訪れるものがあったという。

最上階の8階に開業したガスビル食堂は、本格欧風料理が話題を呼んだだけでなく、東南方向に大きく開かれたガラス越しに、昭和6年(1931年)に再建された大阪城や生駒山が望める眺望も人気を博した。



開館披露当日のガス器具実演

守るため、白亜の外壁を自社製品のコルタルで真黒く塗り、迷彩を施した。また、あらかじめ備えていた災害非常用シャッターを降ろしていたことも功を奏し、昭和20年(1945年)3月に見舞われた大阪大空襲の際は7階・8階の一部を罹災しただけで、御堂筋一帯が焼け野原になった中で「ガスビル」は大きな戦禍から免れた。

終戦後、昭和27年(1952年)5月まで「ガスビル」の2階講演場と6階以上が進駐軍に接収され、宿舎等に使われた。

—北館竣工により建設当時の理想実現—

戦後、高度成長期を迎えたガスの普及に伴う需要拡大により、本社機能の拡充に迫られ、昭和39年(1964年)に北館増築に着手することとなった。

設計は、南館を設計した安井武雄氏の娘婿にあたる佐野正一氏(当時の(株)安井建築設計事務所社長)があたった。風格ある南館と調和し、一体化した外



ガス灯のある玄関写真

オフィスビル・アーカイブ

大阪ガスビルディング(大阪市中央区)

観を持つ北館は昭和41年(1966年)8月に竣工した。



ガスビルの鳥瞰写真

北館は、地下3階地上8階建て、建築面積が2,487.85m²、延床面積が27,700.56m²の規模。これにより、南館と北館を合わせた「ガスビル」は建築面積が4,695.8m²、延床面積も46,864.9m²を有し、御堂筋・御靈筋・平野町通り・道修町通りの幹線道路に区画された一画を占めることになった。

「ガスビル」の建設当初に抱いていた「ワンブロック・ワンビルディング」の理想を実現するに至った。

その後、南館は平成15年(2003年)3月、登録有形文化財に指定された。

「ガスビル」は、大阪ガスグループと(株)安井設計事務所、(株)大林組が連携し、日々の運用管理に加え、設備更新の時期等に合わせて最先端の設備機器を導入するなど建物の価値のバリューアップを図っている。

いつまでも現役で活躍してほしいオフィスビルである。

ビル内部を一般公開する機会も

大阪のシンボルストリートである御堂筋とともに歩んできた「ガスビル」は、多くの大阪市民から親しまれてきた。

築84年余を経過した「ガスビル」を一般の方々が見学できる機会がある。それは、毎年秋に開催されている「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」の期間中。このフェスティバルは大阪市が選定した「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」をはじめとする大阪の魅力

ある建築物を公開するイベントで、平成26年(2014年)から行われている。大阪ガス(株)が実行委員会企業・協賛企業として参画しているもので、この期間中「ガスビル」は一般公開(ガイドツアー形式)される。

「ガスビル」のガイドツアーでは、建設当時の雰囲気が残る南館1階と2階、南館の竣工当時から営業しているガスビル食堂のほか、普段は立ち入りできない北館の屋上などが見学コースとなっている。今年のイベン

トは10月28日と29日に終わってしまっているので、建築に興味のある方などは来年秋に参加されることをお薦めする。

ガイドツアーのコースにもなっている「ガスビル」8階に店舗を構えるガスビル食堂は、大阪のグルメファンから愛され、今でも高い人気を博している。昭和8年創業当時の初代料理長は、帝国ホテルから招聘された。その献立は「欧風料理」と呼ばれ、フランス式料理にイギリス、イタリ

ア、ギリシャ、スペインなどヨーロッパ各地の料理が加わった独自の料理を提供してきた。コース料理につく生セロリは創業当時からの名物として有名。



「大阪セレクション」を紹介する地下鉄広告



ガイドツアーの様子